

議長記者会見（第12回）会見録



日時：平成25年10月2日（水）
午後3時00分～3時20分

場所：石川県議会議事堂
議長応接室

記者会見を行う下沢議長(右)と米田副議長(左)

1 発表事項（下沢議長）

たった今、皆様ご覧になったとおり、第3回の定例会も無事終わった訳ですので振り返ってみたいと思います。

○ 副議長の交代について

最初に、副議長の交代に関してですが、隣におられます米田氏が、この度107人目の副議長になった訳であります。前任の宮下氏は、1年半、最近では最も長いのではないかと思いますけども、我々を助けていただきました。私は、宮下氏は至って常識的な方だと承知しておりまして、様々な形で県政の発展にご尽力をいただきました。心からのねぎらいをいたしたいと思いますし、新たに就任された米田副議長は、ご覧のとおり、私よりもはるかに年長だろうと思います。親子とは言いませんけども、相当上であります。ご承知のとおり、県庁に38年奉職なされた方ですから、県政の隅々かどうかは分かりませんが、よくご承知の方でありますから、是非とも今後頑張ってくださいと思いますし、我々の足らざる点を補っていただければ幸いということであります。

○ 論戦について

次に、論戦についての感想になりますが、そう際だって新しいものはなかった訳です。すべからくもう決まったこととはいえ、新幹線、これは大きなテーマになる。とりわけ、キャラクターについていろいろと意見もありましたが、まあある種の対象になっていま

したね。いい悪いはあえて申し上げませんが、今までにないキャラクターであったことは事実。どなたか答弁で言うておられたとおり、議論の対象になること、これは必ずしも悪いことではない。かつて「せんとくん」というのがおりましたが、あれもどちらかと言うと負の評価があったような気がします、それ故に知名度が上がったことも事実だろうと思います。すべからく石川県、県だけでなく、金沢市も県民も含めてすべての街づくりが新幹線開業に向かっている訳です。これに関しても大いに結構なことだろうと思います。また、「能登空港」「スーパー林道」「県庁跡地」にも愛称をつけるということだそうであります。会社なんかもそうですね、名前を変えて随分と売りが上がったということもあるそうです。ネーミングは大事なことであって、そこはそれぞれの立場で知恵を出していくことが大事であろうかと思ひます。

○ 大雨について

また、大雨が続いています。先般、初めて特別警報が発令されましたが、防災に関すること、これは今世紀の日本だけでなく、世界中の大きなテーマになろうかと思ひますので、これに関する質問が多いことは議会としても当然のことかと思ひております。

○ 東京オリンピックの誘致決定について

さらに、東京オリンピックの開催が9月7日に決定しました。嬉しいことに、森元首相、馳代議士と本県に關係するお二方が随分と貢献されたということで評価を受けているようであります。大変ありがたいことであります。多くの方は、若干取り違えておられるかもしれないが、これは国が誘致するのではない、私もよく知りませんでしたけども。しかし、どう考えてもこれは、国を挙げて取り組むことになろうかと思ひます。こういうことに「あやかる」と言う言葉が適切かどうか私は分かりませんが、石川県としてもどんな協力ができるのか、ただ、石川県としてのメリットも考えなきゃならないと思ひますし、何でもかんでも、オリンピックだ、東北の復興だということになっても、いささか石川県としては、そこにあまり予算あるいは人員的なものを含めて取られっぱなしでは、県の単位で考えると、好ましからざることも考えられますので、石川県もプラス、東京もプラス、日本全体でプラス、ウィン・ウィン・ウィンになるようなことを、県政全体の課題として考えなきゃいかんでしょうね。何がいかはこれからの議論でしょうけども、キャンプ地の誘致とかね、そういうことを。石川県は、比較的、野球場を除いては、施設的に見ても全国にそう見劣りもしないと思ひますので、是非ともそういうこともあってもいいと思ひし、その時はやっぱり、県と市町のバックアップ、それぞれの競技団体との息が合うということ、そしてやっぱり、体協あるいは東京に対するチャンネルなどが重要になってくる気がいたしますので、關係者とよく相談してやっていきたいなと思ひております。

○ 代表質問のあり方について

後は、議会運営委員会では、代表質問のあり方についてということがありました。これは継続審議ということでしょう。まあ、考え方としては二つあるんでしょうね。やっぱり、一定の基準を満たした会派がやるべきだということ。その場合、単独がいいか悪いか、ちょっと今、会派がいささか乱立状態であることは、これ事実ですよ。これに関しても、よく議論してやっていきたいなと思っています。それに関連して、相部屋問題がありますね。これも非常にナーバスな問題であろうかと思えます。私の記憶が確かならば、47都道府県のうち何県かが個室を持っていたと思います。個室がいいのか、大部屋がいいのか、それは一長一短だろうと思えます。一つは、議会内の平等性がポイントだろうと思えます。平等性を考えた場合、何となく自民党が損している心証を受けないこともないし。もう一つは、経費の問題がつきまといまいます。会派が変わる度に壁を工事したりするとお金がかかるのは事実であり、相部屋にしたら相部屋にしたで、また金がかかるでしょう。だから、その辺、どこで線を引くかが大事でしょうし、好むと好まざると、来年3月には知事選挙と同時に、補欠選挙が最低二つはある訳だし、現時点では、その様子も見ないといかんだろうと思うし。相部屋にしたばかりに県費が余計かさんだら、これもいかがかということになるだろうかと思うし、会派のあり方、政党のあり方、その辺の関連性を考えるとどうなのかという難しい問題があるし、もっと言うと、来年の春になってその後一年経つとまた選挙がある訳なので、その辺はまた慎重に検討していくという課題なのではないかと思っております。

○ 広報広聴活動について

広報広聴活動は、今回から点字・音声版を作成することとしました。第5号からは視覚障害者協会に点字版を配布しております。これは大いに結構なことかと承知しております。また、県議会の広報、そんなに高い評価をいただいたとすることを私はあまり聞かない訳でありますけども、アンケート調査をするそうであります。これも大いに結構なことではないかと思っておりますのでご報告をいたします。

○ 議会事務局職員研修について

また、4月から県議会の事務局の強化、ベテラン県議の皆さんの意見を総合すると、昔ほど、昔よりはいささかレベル的にもどうなんだと言う話がありまして、一月に一回議会内研修会を執り行っております。各常任委員会からの報告、それぞれの思うところ、問題意識の共有によりレベルアップを図っておる訳ですけども、先般もすでに退職なされた過去を知るベテラン職員の方に講師に来ていただきました。昔はこうであった、昔はああであった、昔がすべからくいいかと言うとそうではないかもしれませんが、学ぶことも多いということで、そういう研修をやっていることを補足としてお伝えしておき

たいと思います。

いずれにしても、我が県の場合は、5選の大知事をいただいておりますので、議会がかすむことはないだろうとは思いますが、そう言う懸念もなしとはしませんので、今後とも新任の米田副議長にも加わっていただき、より発信力ある議会を目指していきたいと思っております。以上であります。

2 質疑応答

記者：昨日、消費税の増税が正式に決まったということで、今後は、議会としても消費税増税に対する対応がテーマになってくるかと思いますが、そのあたり議長としてどうお考えですか。

議長：消費税、ある種、大方の皆さんが思っておった形で動いておると思っています。あくまでも一般論と同じようなことになるかもしれませんが、景気は数値的には上向いているけども実感がないと言うのは、石川県もご多分に漏れずということなのでしょう。ただ、決まったことは事実として、これはむしろ県議会というよりは執行部の話でしょうが、消費税増税分の裏支えになるような景気対策は、当然、県としても考えておるだろうと思うし、考えてもらわなくちゃ困るし、議会としても提言はしていくべきだろうと思っております。

記者：知事の6選出馬の表明について、この場で聞くのが適しているかどうか分からないのですが、県議会議長の立場から見て、印象というか、その思いをどう想像されますか。

議長：県議会議長としてお答えするには、なかなか難しいような気もしなくもないですが、本人はそういうご意志があるし、日本国の憲法上、何人でも立候補する権利を有する訳ですよ。それに対して、いわゆる多選批判もあるでしょうね。私が受ける心証は、石川県が一番多選に関して寛容な県であるような気がします、個人的にはね。議長として云々と言うのは、あなたがおっしゃったとおりであって立場でもない。ただ、議会と執行部が両輪たりうるならば、あくまでも一般論として、期を重ねればそれだけものをすることも多いでしょう、ある種、知事というのは、私はいつも個人的な演説会で申し上げていますが、日本国の政治チャンピオンたる内閣総理大臣が日本国に与える影響よりも、一国一県に対する知事、あるいは一市一町に対する市長・町長の権限が強い訳ですから、それに比肩するような議会であるように研鑽しなきゃいけないということだろうと思っております。

記者：11月に韓国の全羅北道議会の県内視察が入っていると思うのですが、どの辺に行かれるのでしょうか。

局長：基本的には調印が目的なのですが、時間的な余裕がありませんので、たぶん金沢市内が中心になります。現在計画中であり、まだ確定ではありません。

議長：確定じゃないけれども、両国間、色んな問題を有しているのは周知の事実なのでね、政治的あるいは外向的な課題ではなくて、文化・スポーツあるいはそういう伝統とかソフトの部分での交流がたぶん一義的になるだろうと想像します。それに合致したような形で、金沢の日本を代表するような文化やそういうものを見ていただければいいのではないかなと思います。

記者：ゆるキャラの名前が「ひゃくまんさん」に決まったのですが、どのように感じられますか。議長としてというか、議員としてというか、果たして伝わると感じはしますか、東京などで。

議長：世間の注目を集めることは、ある種、素っ頓狂なところも必要なのかも分かんね。そういう意味では、今のゆるキャラすべてを承知している訳ではないけれども、「くまモン」でも「ふなっしー」でもない、異質なものであることは事実。だから、個人の所見で申し上げると、ある種、賛否の「否」の方がね、結構あることも、それは話題が集まることに関してはいいと思うし、ウケるかウケないかは、それはむしろあなた方メディアの力を借りるところが多いんじゃないの。ただ、ちょっと、百万石と石川県を結びつけることの難しさは、はっきり言ってある。こんなことを言ったら、能登・加賀の人に叱られやすいけれども、やっぱり百万石は金沢なんだろうな、一般的に言って。だからその辺は、非常に我々も、立場柄、表現が難しいけれども、そこをどう上手く伝えるかといったら、悩ましいなあ。あんまり金沢ばかりになってもこれは具合悪いし。ちょっと子どもに受けるような感じはあまりしないな。これはキャラクターにかかわらず個人的な意見だけでも、日本人は何でも多機能にしようとする。タブレットとか、多機能化しようとしたらいい部分が消えたりするので、特化した方が私は個人的にいいと思うけども、「ひゃくまんさん」も何か石川県の名産を全部入れたような形になるわけやね、子どもが絵書きにくいと思うよ、あんな色がいっぱいあったらね。でも、ここまで来たら、異質性という言葉がいいかどうか分からないけども、それで売るしかないとは私は個人的には思います。

記者：先ほどJRから北陸新幹線の路線名について、北陸新幹線という基本は維持した上で、長野経由という表記を一部で使うという発表があったのですが、その点についてお感じになることは。

議長：北陸新幹線は、石川県のみならず、北陸三県の人には譲りがたい名称であろうと思います。かといって、北信越という枠組みがありますね、その仲間の長野県の意向を全く無視し得なかった結果がああいう形じゃないかと私は思っております。

記者：今の質問に関わるのですが、今回、富山-金沢駅間にシャトル便ができるらしいのですが、議会も含めて富山県との連携は、これから一層深まっていくのでしょうか。

議長：それは当然あって然るべきだし、競合的共存とでも言えばいいのか、それぞれが誘客に取り組むでしょう。立山を見て、それから金沢へ来て、能登へ行って、東京へ帰るのもあり、また、当然、東尋坊行くこともあるかもしれない。そういうことでは、別に決してマイナスではないと思うし、シャトル便に関して言うと、よく知りませんよ、細かいことはね、聞いたばかりなので、一つはみんな東京ばかり見ていたけれども、開業すると富山の人たちは大阪行くのが大変やわね、雷鳥が来なくなる訳だから、そう言う意味で、利便を考えた結果じゃないかなと承知をいたしております。

(以上)